

「森の恵み地域の恵み探検隊—みんなでつくる信濃の国の物語—」

財団法人長野県緑の基金・「森の恵み地域の恵み探検隊」制作チーム一同（長野県）

ねらい・目的

長野県は豊かな自然の恵みを受け、県内各地の地域社会もその恵みを受けてそれぞれに独自の地域文化が熟成されてきた。本教材は、郷土「信濃の国」（＝長野県）の未来を担う子どもたちが、自然の恵み、地域の恵みを豊かに感じ取ることができる心の豊かな人に育つように、森や地域社会にいざなうものである。実際に子どもが参加する体験学習プログラムの実践を記録・編集し、教材にすることで、子どもからお年寄りまで地域の多くの人々が教材作りに参画できる「体験学習プログラムベース教材開発」を目指した。地域で実施した自然体験・地域体験を記録（アーカイブ化）し、それをわかりやすくインターネットで公開した。13地域の教材は、それぞれの地域の制作チームが自ら制作した手づくりコンテンツである（資料）。

教材の完成度を求めるよりも、地域の人々が頑張ったつくった熱い思いを子どもたちに伝え感じてもらうことをねらいとした。地域と人を共感のネットワークでつなぎ、参加型でこれからも教材

づくりの参加者を増やしていくため、これからも新たに制作チームが加わり、「信濃の国の物語」をみんなで創り上げていくことができる参加型のインターネット教材にもなっている（本教材は、財団法人長野県緑の基金が、平成20年度子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成金の交付を受けて制作した）。

内容

本サイトでは大量の画像データや動画データを収録し掲載することになる。そのため、オーサリング&アーカイブ系サービス「PushCorn」を採用し、大量のデータがあっても一括転送が可能になるように機能強化した。さらに、子どもたちでも楽しんで見ることができるよう、また、わかりやすく内容が閲覧できるよう、使いやすさ、親しみやすさに配慮した教材運営システムを新たに開発して、サイト更新の持続的な運営に役立てている。

実践結果（今後の課題）

(1)初めての教材制作の取り組みを実践

資料1・教材トップページと13地域の教材・制作チーム

①ブナの森・里山の森（飯山市）なべくら高原・森の家 ②戸隠の鳥たち（長野市戸隠）日本野鳥の会長野支部 ③夏と冬の山村体験（小谷村）NPO法人小谷山村留学育成会 ④千曲川・源流と里川（上田市）学生地域くらし創り考房こみっと、信州上田千曲川少年団、ヤマンバの会 ⑤長野大学・恵みの森 AUN長野大学恵みの森再生プロジェクト ⑥信州桃源郷・里めぐり（青木村）信州桃源郷街道、信州ええっこ村 ⑦黒耀石のふるさと（長和町）黒耀石体験ミュージアム、長野大学 ⑧松本水めぐり（松本市）新まつもと物語プロジェクト ⑨霧ヶ峰の草原 長野県諏訪地方事務所、霧ヶ峰自然保護センター、NPO法人霧ヶ峰基金 ⑩二本の巨木と友だちになろう（塩尻市橋川）NPO法人ビレッジならかわ ⑪木曾のお六櫛（木祖村）木祖村お六櫛保存会 ⑫秋葉古道復活と歴史（大鹿村）大鹿村秋葉古道体験プロジェクト、秋葉古道歩き隊 ⑬摘み草・里の恵み（売木村）NPO法人つみくさの里うらぎ

このサイトは平成20年度子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成金

参加チーム（NPO・行政・大学・施設職員など）のメンバーの多くが初めて教材コンテンツを企画し、さらにはビデオ撮影・編集、コンテンツ編集・権利処理までを行った。自分たちがもっともよく知っている身近な地域をフィールドとし、自然体験・地域体験など自分たちが日頃から指導し、実践している体験学習プログラムをテーマとする教材開発を全チームが実践することができた。メンバーにとっては、教材開発の実践そのものが「生涯学習」となる。教材の企画から制作までを行い、ひととおりすべてのプロセスを実践して経験値に変えることができたことが、大きな成果である。

今後に向けては、培った実践力を継続的な情報発信に活かしたり、地域からの情報発信のコーディネーターに活かしていくことができる。

(2)「地域の情報発信」の輪を広げていくことの課題

地域や活動をどう情報発信に活かすか、何を習得するとそれができるのかを「手引き書」に集めた。「地域の情報発信」の輪を広げていくためには、多くの人々に本教材を見てもらい、その実践の支援が行えるように研修機会を提供していくことが求められる。今後は学校教育の「総合的な学習の時間」などの情報発信・学習支援をコーディネートしていくことが大きな課題となる。

(3)協働学習をより楽しむためのプラットフォームづくり

ウェブコンテンツ（教材）を開発するためのオーサリングサービスをベースにその機能をさらに強化し、大量のファイルを一括転送できる機能などを実装した。さらに教材管理システムですべての教材を一つのポータルサイトに束ねて公開していく運用を可能にした。今後に向けては、これらのシステムを新たな教材ポータルサービスの構築に役立てられるよう、システムの汎用性を高め、全国の各地域での活用が促進されるように取り組んでいくことが課題である。地域の住民や学校などとの連携を図る手段としての活用も期待できる。

PR（特徴・工夫・努力した点など）

(1)各地域の制作チームが主役

各チームにとってもっとも得意な「体験学習プ

ログラム」をコンテンツそのものとし、自分たちの持ち味を最大限に活かせるように動画中心で構成した。誰もが動画や静止画を編集してコンテンツが制作できるオーサリングサービスを機能強化し、自分たちの力での教材づくりに活かしたことにより、それぞれの地域の個性がコンテンツに表れた。その上、すべてのチームが挫折することなく教材を完成させることができた。

(2)SNSを用いたプロジェクト統括手法の実践

地域ごと、チームごとの分散体制で協働的な開発を行うため、地域SNS「おらほねっと」にメンバー全員に参加してもらい、コミュニティ「森の恵み地域の恵み（メンバーオンリー）」で、情報交換・資料の共有・プロジェクト進捗管理を行った。長野大学によるプロジェクト統括チームがプロジェクト管理の手法を提示し、各チームに活用をしてもらう支援を行った。

その結果として、スキル差、遠隔地ゆえに起こりやすい意思の齟齬の壁を、乗り越えることができた。

(3)「参加型アーカイブサーバ」の提案と開放策 ・「共感のネットワークづくり」

地域からの情報発信で大切なことは、地域の人々それぞれが自発的な情報発信を実践し、何よりその実践を楽しめることである。それぞれが主体的に情報を交換しあうネットワークづくりがその支えとなる。

・「参加型アーカイブサーバ」

大容量の動画・静止画をふんだんに蓄積して、地域からの情報発信、学校教育に活かす子どもの学習支援などに幅広く活用する。

・情報発信のアドバイス+スキルアップ指導

教材コンテンツの開発を指導した長野大学の教員スタッフなどが、地域の要望を聞いてアドバイスや指導を行う。学生スタッフも手伝いができるような連携を図る。

備考（実践の参考となる公開中のHPアドレス、写真、資料等）

「森の恵み地域の恵み探検隊—みんなで作る信濃の国の物語—」

<http://megumi.midori-joho.gr.jp/>